



仲間と共に

令和2年度 <三輪南小 学校だより>

令和2年12月22日

互いのちがいを認め合う・・・「みんなちがってみんないい」

校長 小野木 義浩

今年度、三輪南小学校では「道徳」の授業に重点を置いて取り組んでいます。「互いを認め合える子」「自分で考え、判断できる子」、「よりよく生きようとする子」を目指して、ひとつの出来事をいろいろな面から考えたり、いろいろな立場から考えたりすることは大切にしている力のひとつです。

道徳では、子どもたちは自分の気持ちを主人公に重ね合わせながら、自分を見つめていきます。さらに、違う立場の人の気持ちを考えることで今まで気付かなかったことや状況を発見することができます。そうすることで、自分自身を客観的に、少し離れた場所から「全体の中での自分」、「他の人との関わりの中での自分」として考えることができます。多角的・多面的に物事をとらえる力はとても大切と考えています。

さて、子どもたちは、日常の生活の中でも「ぽかぽか言葉」「よいところ見つけ」などの取組を継続して行っています。

「互いのよさ」「自分と他の子のちがい」を認め合えるようになることを目指しています。「人は誰でもよいところがある」という意識で人に関われば、相手のよさに気が付きます。自分を大切にできる子は他人も大切にしようとしめます。必ずいじめも減っていきます。自分の立場だけで物事を見るのではなく、相手の立場や周りの様子を豊かに想像できれば、自己中心的にならず、人にやさしくできます。

仲間の中には、走ることや歌うことが得意な子もいれば苦手な子もいます。みんなの前で話すことが得意な子もいれば苦手な子もいます。一人一人「ちがい」があることを理解し合い、温かい言葉をかけ合って共に歩むことが大切です。

三輪南小学校では、教職員と子どもたちといっしょになって、金子みすずさんの有名な詩の一文にあるような「みんなちがってみんないい」の実現を願い、一人一人の子どもが自分の持ち味を生かし、ちがいを個性ととらえ、安心して生活できる学校を、引き続きつくっていきたいと考えています。(金子みすずさんの詩「私と小鳥と鈴と」は三輪南小学校の正面玄関に掲示されています)



★4年道徳「雨のバス停留所」



★1年道徳「かぼちゃのつる」

<保護者・地域の皆様へ>

本年は、本校の教育活動に何かとご支援・ご協力を賜り、誠にありがとうございました。特に、新型コロナウイルスに関わり、様々な対応、消毒作業や健康チェックサポート、低学年の給食配膳などのボランティア活動でたくさん助けていただき感謝いたします。本当にありがたかったです。おかげで、教職員は、子供たちと向き合う時間を確保できました。来年もよろしく願いいたします。よいお年をお迎えください。

新型コロナが早く収まりますように・・・。